肥後もっこすこそ素晴らしい信者です。

九州女学院短大教授
エリザベス・C・ハドルさん

昭和二十六年に熊本に来られて三十六年。戦後まもなくの混乱期から現在まで熊本の移り変わりを見てこられた。宣教師で九州女学院短大教授のハドル先生に第二の故郷となった熊本について語っていただきました。

私の発見した熊本　熊本についてほとんど何もわからないで日本に来た。子供の時から九州女学院、九州学院と慈愛園の話を聞いたことがあった。**大学でエンブリの「須恵村」を読んだ。その他は白紙だった。**熊本に来てしばらく目で見える物しかわからなかった。その時毎日散歩に出かけた。一人で細川ガラシャのお墓を見つけ、入ってはいけない個人の庭に入ったとずっと後でわかった。熊本城(宇土やぐら)を見学して、水前寺公園に蛍や桜を見に行った。花岡山にある熊本バンドと殉教者のお墓を最初の年に訪ねた。そのうちに、職員旅行で初めて原城の跡へ行った。しかしどうして天草ではなく原城で島原の乱が起こったかわからなかった。日本へ来てまだ五年で、熊本と原城の関係に気がつかなかった。しかし天草五橋が出来て、本渡市のキリシタン記念館に行ってしばらく色々な歴史のつながりがかすかに感じられた。

その時から暇を作って、本を読んだり、隠れキリシタンに関係ある所を訪ねたりするようになった。また**お客を案内することが楽しみになった。**このごろ興味深いことに気がついた。昔から『殉教者の血が教会の種』といわれた。そうして熊本人は肥後もっこすといわれている。その二つの事を共につなぐと興味深いと思った。というのは、肥後もっこすこそ素晴らしい信者、死んでも信仰を絶対に捨てない。その方々の血の種は今でも生きている。エジプトの墓からの種が何千年もたってから芽を出した話があるので、肥後の人々の血の種からもきっと芽が出て、実がなると信じている。**この歴史深い熊本に住む機会を与えられたのは幸せと思う。**私は熊本県に古墳があることは長年わからなかった。今は美術館で壁画を見た人は古墳のあることがすぐわかるけれども。山鹿と菊水についてもっと誰でもわかるように宣伝すべきと思う。最近アメリカ人のお客を案内した時、熊本の友達も案内した。その方は熊本の生まれ育ちなのに初めてだといった。自然の美はかなり上手に宣伝されていると思う。また案内地図も出来ているので、見学しやすい。私にとって資料の足りないのは有名なお寺と神社の紹介だ。多良木方面の神社とお寺に昔案内されたが自分でもう一度行こうと思っても道はわからない。熊本に長く住めば、熊本を理解できる。しかし、**熊本に慣れていない外国人にもすぐわかる案内物を**、日本語と英語と両方で作ってもらうとありがたい。

一九二三年　米国ノースキャロライナ州に生まれる。
大学卒業後　高校教諭となる。
一九五〇年　来日
一九五一年　九州女学院中学校・高校教諭として来熊。
一九七五年から現職